

取材日：2018年9月20日



糖尿病



新居浜・西条医療圏

糖尿病性腎症重症化予防に 行政と医療機関が一体化して臨む。

Point of View

- ①糖尿病性腎症患者の治療への動機づけのために腎臓教育入院を推奨
- ②糖尿病性腎症重症化予防プログラムの周知と、行政や医療機関の連携強化を目的とした研修会を開催
- ③研修会を通じて医療スタッフと保健師が連携し、地域で糖尿病性腎症重症化予防策を展開

医療法人住友別子病院
糖尿病内科
科長

中村 達先生

愛媛県立新居浜病院
糖尿病・内分泌内科
医監内科部長

南 尚佳先生

医療法人厚生会
新居浜山内病院
院長

山内 保生先生

えもり内科クリニック
院長

江盛 康之先生

腎臓専門医の少なさを 糖尿病専門医との連携でカバー

糖尿病性腎症重症化予防が国策として掲げられる中、日本腎臓病学会は、かかりつけ医から腎臓専門医・専門の医療機関への紹介基準を提唱し、CKD診療ガイドラインに明記した。

しかし、腎臓専門医が所属する医療機関には地域偏在があり、愛媛県東部（東予地域）の新居浜地区に勤務する腎臓専門医はわずか1名。こうした状況下で、いかにして糖尿病性腎症重症化予防の体制を構築するかが、きわめて重要かつ喫緊の課題だと話すのは、住友別子病院で糖尿病内科科長を務める中村先生だ。

「愛媛県の腎臓専門医は、県庁所在地の松山市が含まれる中予地域に25名と集中し、東予地域には7名、その中の新居浜地区には当院の1名しかいません。

新居浜地区の人口が約100,000人ですので、100,000人に対してひとりの腎臓専門医といった状況です。ガイドラインの基準で腎症患者を専



左から中村先生、南先生、山内先生、江盛先生

【資料1】

住友別子病院の腎臓教育入院スケジュール

	1日目 (月)	2日目 (火)	3日目 (水)	4日目 (木)	5日目 (金)	6日目 (土)	7日目 (日)
講義 内容	オリエン テーション	腎臓のしくみと 働き	腎不全と 検査結果の 見方	日常生活管理 栄養指導	治療選択に ついて	外出・外泊 (希望者のみ)	
DVD 視聴		慢性腎臓病って どんな病気			腎不全の 治療選択		
担当 職種	病棟看護師	病棟看護師	病棟看護師	病棟看護師 管理栄養士	病棟看護師		

	8日目 (月)	9日目 (火)	10日目 (水)	11日目 (木)
講義 内容	血液透析に ついて	腹膜透析に ついて	腎臓リハビリ テーション	栄養指導
	透析室見学(月曜日から火曜日)			
担当 職種	病棟看護師 (透析室看護師)	病棟看護師 (透析室看護師)	理学療法士	管理栄養士

*2週目の木曜日以降で2回目の栄養指導が終了すれば退院できる
*すべての講義を家族も一緒に参加可能

出典：中村先生提供資料

門医に紹介するのは困難で地域独自の工夫が必要でしょう」(中村先生)

そこで、中村先生や愛媛県立新居浜病院糖尿病・内分泌内科医監内科部長の南先生が対策として挙げるのが、糖尿病性腎症の比較的軽度の段階では糖尿病専門医が紹介を受けるというもの。

「糖尿病で診療している患者さんの腎臓の悪化をできるだけ早期に発見するよう努め、進行を止めるべく、我々でもできる指導をやっているという考え方です」(中村先生)

「診療所の先生方には、腎症が疑われる患者さんを病院の糖尿病外来へ紹介して下さるようお願いしています。糖尿病専門医が診断をしたうえで、療養指導を行い、基本的な糖尿病治療と血圧コントロールをすると、蛋白尿が改善される患者さんは少なくありません。

また、糖尿病以外に起因する腎疾患が否定できない場合など、腎臓専

門医への受診が必要と判断されたケースで患者さんを紹介すれば、腎臓専門医の負担は、かなり軽減できるはずです」(南先生)

病診連携をスムーズにし、腎臓専門医不足に一役買いたいと言うのは糖尿病専門医で新居浜市医師会の会長を務める新居浜山内病院院長の山内先生である。

「当地区の状況を診療所の先生方と共有して腎臓専門医の負担軽減の重要性をご理解いただき、糖尿病で腎症の兆候があれば、まずは、糖尿病専門医に紹介するよう、啓発していきたいと思っています」(山内先生)

患者の意識を変えるのに効果的な腎臓教育入院

腎臓専門医の負担軽減のためのもうひとつの有効な手段が、早期の腎症患者の腎臓教育入院(【資料1】)だという。

「当院では腎臓教育入院を実施しています。発症後早期の段階で、患者さん自身に腎症の病態や症状進行を予防するのに必要な生活習慣等を学んでもらい、透析に移行せずにすむ患者さんを増やすことが目的です」(中村先生)

「糖尿病患者は、一般的に腎臓の合併症について理解が浅く、治療への動機づけが非常に難しい。そこで腎症が悪化したらどんなにたいへんかを実感してもらうため、軽度の腎症患者(第2期～第3期)には住友別子病院での腎臓教育入院を提案しています」(南先生)

教育入院で腎症の治療に積極的になった患者を糖尿病専門医が外来で診療し、重症化をストップさせられれば、腎臓専門医に紹介しなくてすむというわけだ。また、教育入院のメリットは、腎臓専門医の負担が少ない点にもある。

「教育入院では、腎臓専門医は肝心な部分の指導をするのみで、多くの教育や指導は多職種の医療スタッフが担います。

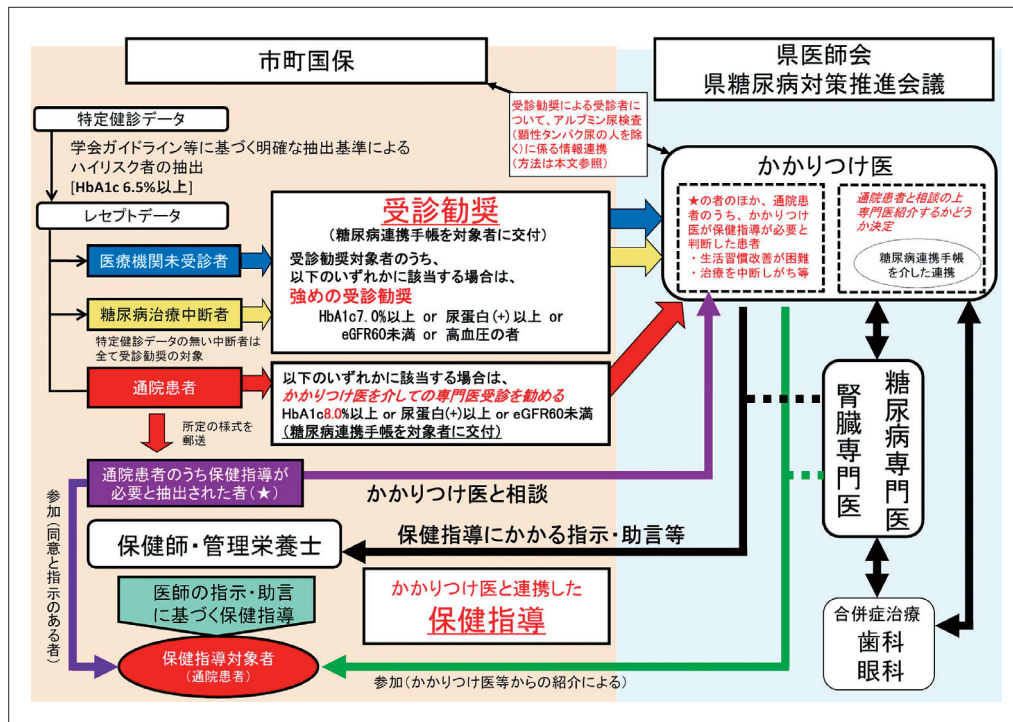
したがって腎臓教育入院は、少ない負担で症状が進行した受診患者を減らせる、効率的な透析移行防止策と言えます」(中村先生)

医師を対象に開催が始まった『糖尿病性腎症を考える会』

糖尿病性腎症重症化予防(【資料2】)は、行政と医療機関が一体となって実施すべき施策とされていることから、新居浜地区では2017年9月、新居浜市国保課の担当者、新居浜市医師会、基幹病院の糖尿病専門医などが集まり、『糖尿病重症化予防検討会』が開かれ、地域の医師や医療スタッフ向けの研修会が計画された。現在までに医師向けの『糖尿

【資料2】

愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラム(国保版)の概要



出典：愛媛県資料「愛媛県糖尿病性腎症重症化予防プログラム(国保版)の策定について」

病性腎症を考える会』(以下、考える会)は2回、開催されている。

山内先生は、考える会の準備段階からかかわってきた。

「まだ、医師会の会員の間では興味の持ち方に温度差はありますが、将来的には医師会全体が団結して取り組んでいきたいですね」(山内先生)

第2回の考える会では、講演のあとに病院や診療所の医師が参加し、「地域の糖尿病連携について考える」をテーマにパネルディスカッションが行われた。参加した、えもり内科クリニック院長の江盛先生が、プライマリ・ケアの立場から話す。

「毎日数名ずつですが、糖尿病患者を診ており、今、行っている診療に問題がないか気になっていたのですが、具体的な方向性が見えて勉強になりました。

患者さんを専門医に紹介する基準

は地域の実状によって違うので、新居浜地区独自の、ある程度の決まった基準があると連携しやすくなると感じました。考える会には積極的に参加するつもりです」(江盛先生)

市と医療機関の取り組みを
無駄なく一体化させる

一方、医療スタッフ向けの研修会としてスタートしたのが、『透析移行阻止のためのスタッフ勉強会 in 新居浜』。2017年12月から2018年9月までに3回開催された。この研修会では、新居浜地区の糖尿病専門医と基幹4病院の医療スタッフ、新居浜市国保課の保健師が参加し、互いに各施設と行政の取り組みを紹介し合いながら、知識や指導技術の向上を図った。

「第2回の研修会のワークショップ」

やディスカッションで保健師の方から指導対象症例への対応をより良くしたいとの要望が出されました。それを受けて第3回の研修会では、保健師が提示した実際の問題症例について、基幹4病院の医療スタッフと保健師が対処法や指導法をグループワークで検討しました」(南先生)

その提示された症例（【資料3】）によって、特定健診の検査結果から治療の必要性があるものの、まったく病気を自覚していない住民のもとを、保健師が一人ひとり訪問して受診勧奨を行っていることが明らかになった。さ

らに注意喚起された住民が、受診前の何年かは、なんとか良くなろうと食事や運動、生活習慣の改善に努力しているケースがあることなどが見えてきたという。

「受診勧奨によって患者さんが医療機関にたどり着くのは、保健師が根気よく説明や情報提供をした結果なのだと、医療スタッフは初めて知りました。

グループワークを通じて、病院の医療スタッフには患者さんが持参する保健師の紹介状の重さが伝わり、保健師には住民へのより良い説明や指導のポイントを理解してもらえたのではないのでしょうか。保健師の皆さんの指導が、よりいっそうレベルアップするよう支援を継続したいと思います」(南先生)

新居浜市国保課がかかわって保健師が参加した研修会は好評を博し、

継続を望む声が多く寄せられ、地域の医療連携に新しい風を呼び込んだ格好だ。

地域の医療連携の輪を いずれは介護にも広げて

今後は、糖尿病患者の高齢化が見込まれるため、その対策が重要になってくる。
「介護が必要な患者さんが増えますから、介護スタッフの方にも基本的

な糖尿病の知識を持っていただく必要があるでしょう」（江盛先生）
「糖尿病患者の受診勧奨における保健師との連携の重要性が明らかになりましたが、高齢患者の対策では介護スタッフとの連携が不可欠でしょう。糖尿病を取り巻く多くの課題を解決するには、病院や診療所だけでなく、地域のさまざまなフィールドで活躍するスタッフと連携していかなければならないと考えます」（南先生）

最後に山内先生が、医師会の取り組みも含めて、話を締めくくってくれた。

「診療所の非専門医の先生方にも、糖尿病性腎症にもっと興味を持ってもらえるように情報を発信していきます。

また、『透析移行阻止のためのスタッフ勉強会 in 新居浜』は、主に病院のスタッフが対象でしたが、診療所のスタッフにも参加していただき、スタッフ同士の連携が深まれば透析に移行する糖尿病の患者さんの減少に拍車をかけられると確信します」（山内先生）

新居浜地区では、病診連携にとどまらず、行政の保健師や医療スタッフ、介護スタッフへと地域の連携の輪を広げていくことで、糖尿病性腎症重症化予防に向けた確かな手応えをつかみ始めている。

【資料3】

保健師が提示した症例

	事例紹介	保健師からの検討事項
1	〈治療中断事例：60歳代男性〉 2014～2016年糖尿病で2～3回医療機関受診し中断。 2017年脳梗塞にて入院加療、退院後治療中断。2017年10月の特定検診でHbA1c8.7%。	家庭訪問し受診勧奨をしたが、受診困難。脳梗塞後遺症、交通の便が悪い、病識が不十分。
2	〈かかりつけ医との連携希望事例：60歳代男性〉 2015年特定検診でHbA1c7.2%。保健師は食事指導、運動指導、受診勧奨。2018年医療機関受診し、糖尿病治療開始。HbA1c5.3%と改善。	保健指導による栄養指導、運動指導の効果について評価したい。血糖コントロール改善後の治療法についてかかりつけ医と連携希望。
3	〈高血圧で医療機関に通院中の糖尿病未治療事例〉 特定検診ではHbA1c9%台、腎症3期の疑い、合併症は未検査で、レセプトでも糖尿病治療が確認できない。	糖尿病の治療が行われていない理由が不明。本人に病識がなく、治療を拒否しているためか。
4	〈特定検診が病院受診につながった事例：60歳代女性〉 2014～2016年の特定検診でHbA1c6.4～6.7%と糖尿病を指摘。本人は自分で食事療法や運動療法で対処できると考えていた。夜に間食習慣あり。2017年の特定検診でHbA1c8.6%と糖尿病が悪化し、医療機関に受診し治療開始。	生活習慣が血糖コントロールに及ぼす影響について理解し、保健指導に生かす。
5	〈医療機関と連携できた事例：60歳代独居男性〉 2013年医療機関治療中断。2014～2016年特定検診HbA1c8.2%、保健師が家庭訪問し、食事療法の指導、受診勧奨。2016年医療機関受診、腎症2期と診断。保健指導で、間食が減り、過剰なインスリン投与を避け、運動療法もとり入れた。2017年HbA1c6.7%と改善し、中断なく治療継続。	医療機関が腎症発症・重症化予防の指示書を作成し、それにしたがって、定期的な家庭訪問をし、保健指導を実施。食事指導では実際の食事内容、調味料まで確認できた。
6	〈独居事例〉 ①（70歳代女性）家族身内に病状が伝わっていない。 ②（50歳代男性）2017年検診HbA1c14.2%。これまで医療機関は受診中断が多かった。保健師の家庭訪問が励みになり医療機関を受診しインスリン治療を継続、HbA1c7%台に改善。	家族への情報伝達と連携、緊急時の対応の準備。インスリン治療全般の支援のための知識・情報の必要性和指導技術の習得。

出典：南先生提供資料

医療法人住友別子病院

〒792-8543
愛媛県新居浜市王子町3-1
TEL：0897-37-7111

愛媛県立新居浜病院

〒792-0042
愛媛県新居浜市本郷3-1-1
TEL：0897-43-6161

医療法人厚生会 新居浜山内病院

〒792-0022
愛媛県新居浜市徳常町6-13
TEL：0897-37-0022

えもり内科クリニック

〒792-0026
愛媛県新居浜市久保田町2-4-27
TEL：0897-47-5838